

令和 4（2022）年度  
FD・SD 活動報告書

大阪河崎リハビリテーション大学  
FD・SD 委員会

## 目 次

はじめに	2
活動の概要	3
1. 令和4年度FD・SDへの取り組み理念・目的	3
2. FD・SD活動の組織・体制	3
3. 活動実績	3
4. FD・SD研修会記録	6
5. 授業評価アンケート分析結果	13
FD・SD委員会規程	20

## 《はじめに》

本学を取り巻く状況は大変厳しい中、大学として最も重要な教育とそれを支える教職員の教育法や資質向上、情報交換のために、2022年度も多数のご協力を得てFD・SD活動を行ないました。今後、教職員の教育・研究活動への参考とするために、2022年度FD・SD研修会の実施内容、授業評価集計結果等を活動報告書としてまとめました。各層で有意義にご活用頂ければ幸いです。

本学では開講されている授業に対して、平成19年度から受講者による評価を開始しました。本年度も、学生の皆さんと、非常勤の先生方も含めた担当教員の多大なるご協力を得て、事務職員には各授業に対する取りまとめを含めた大変な業務を実施していただき、後半にまとめることができました。関係者の皆さま方に厚く御礼申し上げます。

授業評価のねらいは、本学のもっとも重要な教育活動である授業を、少しでもより良いものに向き上げていくことでもあります。そのため、実際に授業を受ける立場である学生諸君に積極的な評価をしていただきましたが、その際には当然ですが、成績評価等にバイアスなどが生じないように十分な配慮をした上で、集計作業を行いました。この報告書には本学の開講授業全体でまとめた、各質問項目別の集計結果を記載してあります。実際の各授業科目別の集計については、個別にフィードバックを行いました。ただし、現段階では諸般の事情を鑑み、各科目別集計結果をそのまま公表するところまでは踏み込んでいません。各科目ご担当の先生方には、個別に自らの授業設計や講義運営についての忌憚のない評価結果を、まずはこの報告書にもある全体平均と比べながらご判断いただき、間に合えば残りの授業に反映していただきたいと考えました。その上で、学生側の授業への受け取られ方を、各項目が示している様々な面から自己評価して頂き、今後さらに工夫され、より良い授業を行うよう自己研鑽に励んでいただいています。

令和4年度も、今までに頂いた意見を基に遠隔授業に関する項目も加えて評価項目の改定を行いました。授業評価を行うことで少しずつではございますが有意義な効果が出てくるものと思われれます。もちろん、評価する側の学生にとっても、授業への取り組みを今一度真剣に考える機会になっていることを期待するものです。今後、教員間における相互評価も含めて、各種検討課題を考慮しながら、授業評価をかさねることで、先生方による本学の開講授業がいずれもすばらしいものに向き上げ発展されていくこと、授業を受ける学生諸君が、よりよい授業に触れて素晴らしい療法士に育ってくれることを、FD・SD委員会を代表して切に願うものであります。また、アンケートの取りまとめと報告書作成はFD・SD委員会が担当いたしました。アンケートの実施は事務局学務係を中心に分担し、分析についてはIR室の協力を得て行いました。末筆ながら委員会各位、担当事務職員の方々のご協力に感謝いたします。

2023年5月

FD・SD委員会  
委員長 大嶋 伸雄

## 活動の概要

### 1. 令和4年度FD・SDへの取り組み理念・目的

建学の精神「夢と大慈大悲」、教育理念「知育と人間性を育む」を達成するために、FD・SD活動を通じて教育・研究活動等を活性化させる。

大学全入時代に突入し、本学学生が学力不足であることは否めない。専門にとらわれず、大学生として（あるいはセラピストとして）求められる基礎的な学習技能や学修態度（倫理的思考、批判的思考）について大学教育を通じて培う必要がある。

そのため、教職員の教育・研究活動等の能力向上を図る必要がある。FD・SD研修や授業評価等を行い、授業の内容及び方法の改善等を目的とする。

以上の理念・目的から、教職員は本研修に必ず参加することとする。

### 2. FD・SD活動の組織・体制

FD・SD委員会を中心に実施し、各種委員会と適宜連携して取り組む。

### 3. 活動実績

#### (1) FD・SD研修会

令和4年度は以下のテーマで全6回のFD・SD研修会を開催した。欠席者に対しては、研修内容の研修動画の配信及び資料の配布によるフォローアップを行った。

2022 年度 FD・SD 研修会実績

回	日程	テーマ	参加者数
第 1 回	4 月 12 日	【SD】 建学の精神と事業計画 武田学長 【FD】 「21 卒募集振返りと関西マーケット の今年度入試状況ご報告」 株) リクルート	教員 41 人 職員 30 人
第 2 回	6 月 21 日	【FD】 学修支援委員会報告 【FD】 学生相談室報告 【FD】 2021 年度 授業評価フィードバック (FD・SD 委員会) 【SD】 研究発表 (新任教員)	教員 39 人 職員 30 人
第 3 回	8 月 23 日	【SD】 コンプライアンス教育 (事務局長) 【SD】 研究倫理教育 (研究倫理委員会) 【SD】 科研費説明 (総務課)	教員 41 人 職員 29 人
第 4 回	11 月 1 日	【FD】 自己点検・評価室 【FD】 学生相談室 【SD】 研究発表 (2021 年度 共同研究費・学長裁量研究費 採択者)	教員 41 人 職員 28 人
第 5 回	12 月 13 日	【FD】 学修支援委員会の取り組み 【FD】 2023 年度シラバスについて 【FD】 大学院について 【FD】 授業評価フィードバック	教員 38 人 職員 27 人
第 6 回	3 月 22 日	【SD】 ハラスメント対策 (近畿リハビリテーション学校協議会主催)	教員 40 人 職員 27 人

(2) 学生による授業評価アンケート

① 対象授業科目

以下の科目を除く全科目を対象に実施

(臨床見学実習、臨床実習概論、臨床検査・測定実習、臨床基礎実習、臨床総合実習Ⅰ、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅱ、臨床総合実習、卒業研究、卒業論文)

② 実施時期、方法

期末、web形式で実施

③ アンケート項目

「5. 授業評価アンケート分析結果」参照

④ フィードバック

個別フィードバック及びFD・SD研修会による全体のフィードバック

⑤ 回収率

前期：35.3% 後期：31.0%

回答率

前期：51.5% 後期：44.6%

⑥ 各分析結果

「5. 授業評価アンケート分析結果」参照

#### 4. FD・SD 研修会記録

##### 研修会記録

研修会名	2022年度 第1回 FD・SD 研修会
実施日時	2022年4月12日（火）10：40～12：10
場所	1号館3階 第1中講義室 及び teams 配信
出席者 【オンライン研修・ オンデマンドを含む】	【教員】41名 【職員】30名 計 71名

研修形式と内容	講師	研修記録（概要）
建学の精神と 事業計画	武田学長	武田学長から別添の資料をもとに建学の精神と令和4年度の事業計画について説明があった。
22卒募集振返りと 関西マーケットの 今年度入試状況 ご報告	株式会社リクルート	リクルート株式会社から、2022年度の入試傾向及びリハビリテーション分野の志願状況等について報告があり、続いて本学における募集の結果の振り返り及び分析結果の報告があった。 また、来年度の募集に向けて、質疑応答・意見交換が行われた。

##### 【配布資料】

- ・ 令和4（2022）年度事業計画書
- ・ 22卒募集振返りと関西マーケットの今年度入試状況ご報告

研修会名	2022年度 第2回 FD・SD 研修会
実施日時	2022年6月21日(火) 10:40~12:10
場所	1号館3階 大講義室 及び teams 配信
出席者 【オンライン研修・ オンデマンドを含む】	【教員】39名 【職員】30名 計 69名

研修形式と内容	講師	研修記録(概要)
学修支援委員会 報告	久利学修支援委員長 株式会社進研アド	入学前準備教育に関する新たなプログラムツールの紹介があった。今後、学修委員にて導入するかの検討がなされる。
カウンセリング ルームのご利用 にあたって	堺学生相談室長	カウンセリングルームの利用指針について報告がなされた。個人情報に関して、情報共有するにあたっては、当該学生からの同意を必要とすることが周知された。
2021年度 授業 評価アンケート フィードバック	坪田 FD・SD 委員長	授業評価の報告 今後、必要に応じて教員への授業改善を含めた指導体制を検討する。
新任教員の自己紹 介と研究発表	岸村厚志 作業療法学専攻長 塚本能三 言語聴覚学専攻長 宇都宮洋才 言語聴覚学専攻 教授 上田有紀人 言語聴覚学専攻 講師 河野良平 言語聴覚学専攻 講師 久保峰鳴 理学療法学専攻 助教	本年度就任された教員から、これまでの経歴 研究内容等の紹介をしていただいた。

【配布資料】

- ・学問サキドリプログラム
- ・カウンセリングルームのご利用にあたって
- ・2021年度 授業評価アンケート集計結果について
- ・新任教員名簿



## 研修会記録

司会・記録 水野貴子

研修会名	2022年度 第3回 FD・SD 研修会
実施日時	2022年8月23日(火) 10:50~12:10
場所	1号館4階 第2中講義室・オンライン研修・teams 配信
出席者 【オンライン研修・オンデマンドを含む】	【教員】41名 【職員】29名 計 70名

研修形式と内容	講師	研修記録(概要)
令和5年度科研費応募のお願い	武田 学長	武田学長から本学の科研費応募数は増加しているが、令和4年度の採択は1本だけだったので、不採択だった課題をブラッシュアップして再応募するようにお願いがあった。
コンプライアンス教育	亀井 事務局長	亀井事務局長からスライドをもとに令和4年度コンプライアンス教育について講義があった。
研究倫理教育	中村 研究倫理審査委員長 中西 用度管財係長	中村研究倫理審査委員長から研究倫理教育についてスライドをもとに講義があった。また事前にメールで連絡している研究倫理 e-ラーニングの受講依頼があった。続いて中西用度管財係長から研究倫理審査の申請方法について説明があった。
科学研究費説明	河瀬 総務課長 大岡 庶務係長 田中 庶務係主任	河瀬総務課長から冒頭に10月から始まる勤怠管理の説明があり、続いて近年の科研費採択動向等の説明があった。また、大岡庶務係長より令和5年度における科研費の主な変更点や学内締め切り日等について説明があった。さらに、田中庶務係主任から研究費の使用ルールや出張旅費等の算出方法について説明があった。

### 【配布資料】

- ・ 令和5年度科研費応募のお願い
- ・ コンプライアンス教育
- ・ 研究倫理について
- ・ 科学研究費助成事業について

## 研修会記録

司会・記録 今岡 真和

研修会名	2022年度 第4回 FD・SD 研修会
実施日時	2022年 11月 1日（火） 10：40～12：10
場所	1号館 3階 第1中講義室・オンライン研修・teams 配信
出席者 【オンライン研修・ オンデマンドを含む】	【教員】 41名 【職員】 28名 計 69名

研修形式と内容	講師	研修記録（概要）
自己点検評価について	坪田 自己点検・評価室長	点検評価に向けた準備状況などが説明された。今後の作業工程などの説明がなされた。フロアからの質問は無かった。
学生支援のあり方～発達障害を中心に～	堺 学生相談室長	発達障害を抱えた学生に対する学習サポートや学内における対人関係の構築に関する他学の取り組みや先行事例が示された。
2021年度採択分学内共同研究費による研究発表	1. 理学療法学専攻 峰久 京子 先生  2. 理学療法学専攻 村西 壽祥 先生  3. 理学療法学専攻 畑中 良太 先生  4. 作業療法学専攻 大類 淳矢 先生	『貝塚市の子どもの健やかな発達を育むための、運動器検診プロジェクトの創設～子どもの健やかな身体を育むプロジェクト（カイツカイクキ・プロジェクト）～』  『健常高齢者における肩関節周囲炎及び無症候性腱板断裂の疫学・コホート調査』  『発達性協調運動障害児の自己効力感を高める方法と運動プログラムを実施することで、より効果的な協調運動技能の向上が得られるかを検証する』  『精神障害者のリカバリーと認知機能障害、作業機能障害、作業参加の関連』

### 【配布資料】

- ・ 時期外部認証評価までのスケジュール、工程表
- ・ 学生支援のあり方～発達障害を中心に～

## 研修会記録

司会 白岩 圭悟

研修会名	2022年度 第5回 FD・SD 研修会
実施日時	2022年12月13日（火）10：40～12：10
場所	1号館3階 第1中講義室・オンライン研修・teams 配信
出席者 【オンライン研修・オンデマンドを含む】	【教員】38名 【職員】27名 計65名

研修形式と内容	講師	研修記録（概要）
学修支援委員会の取り組み	久利 学修支援委員長	今年度実施したカワリハドリル、日本語力テスト、カワリハ塾、ダンドリ手帳など、取り組みについて報告があった。
2023年度シラバスについて	岡田 教務委員長	シラバスの作成にあたって、外部評価に対応した記述内容や項目について説明があった。
大学院の報告について	リハビリテーション研究科専攻長 中村美砂	大学院の授業評価アンケートや、開講科目などについて報告があった。また英文購読の授業風景についても動画による情報提供があった。
授業評価フィードバック	坪田 FD・SD 委員長	2022年度前期の授業評価アンケートの全体をまとめたフィードバックを行った。 回収率・回答率は前年度より向上しているが、回収率・回答率が著しく低い担当教員が散見することから、効果的な実施を全教員に呼びかけた。

### 【配布資料】

- ・学修支援委員会の取り組み
- ・大阪河崎リハビリテーション大学 大学院の報告
- ・2022年度前期 授業評価アンケート集計結果について

**研修会記録**

研修会名	2022年度 臨時FD・SD研修会
実施日時	2023年3月22日(水) 15:00-16:00
場所	オンライン研修・オンデマンド動画配信
出席者	【教員】40名 【職員】27名 計67名

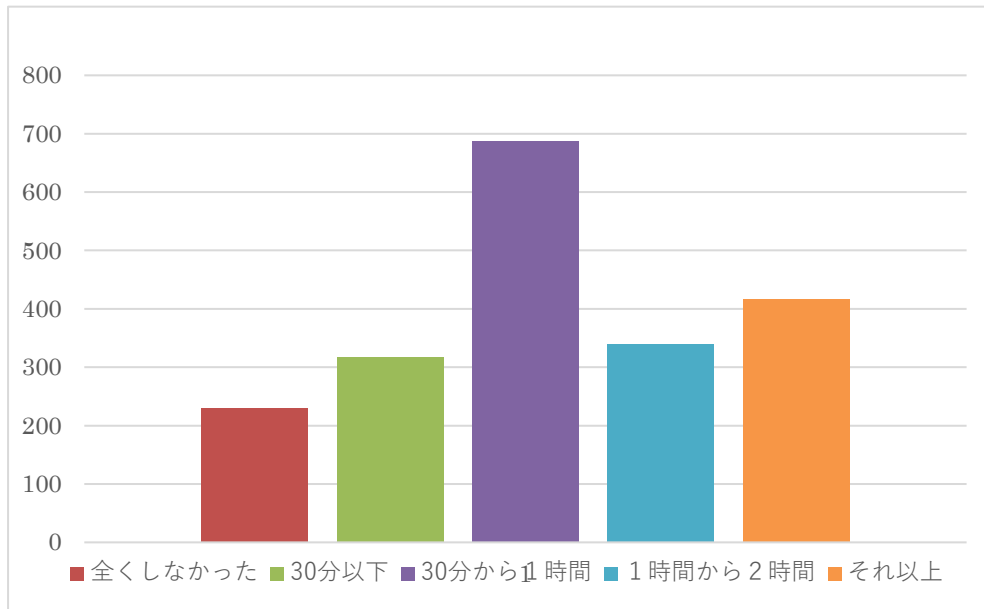
研修形式と内容	講師	研修記録(概要)
ハラスメント対策	エデュース株式会社	具体的な事例等を用いてハラスメントについての基礎知識や注意点をご紹介いただき、予防策と対応策を研修していただいた。

【配布資料】

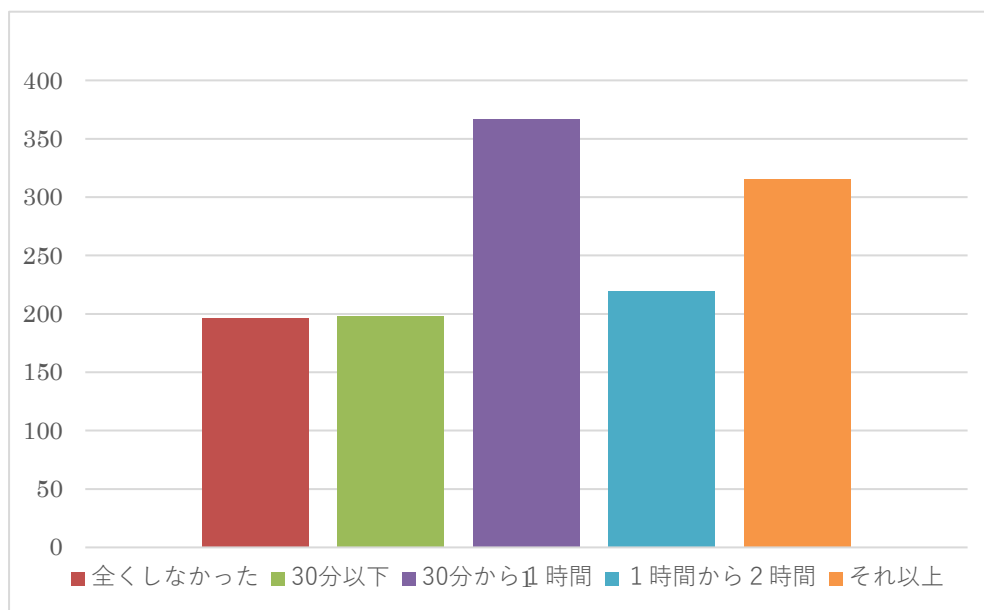
## 5. 授業評価アンケート分析結果

1. この授業の予習・復習・レポートの作成等に1週間で何時間取り組みましたか。

### 【前期】

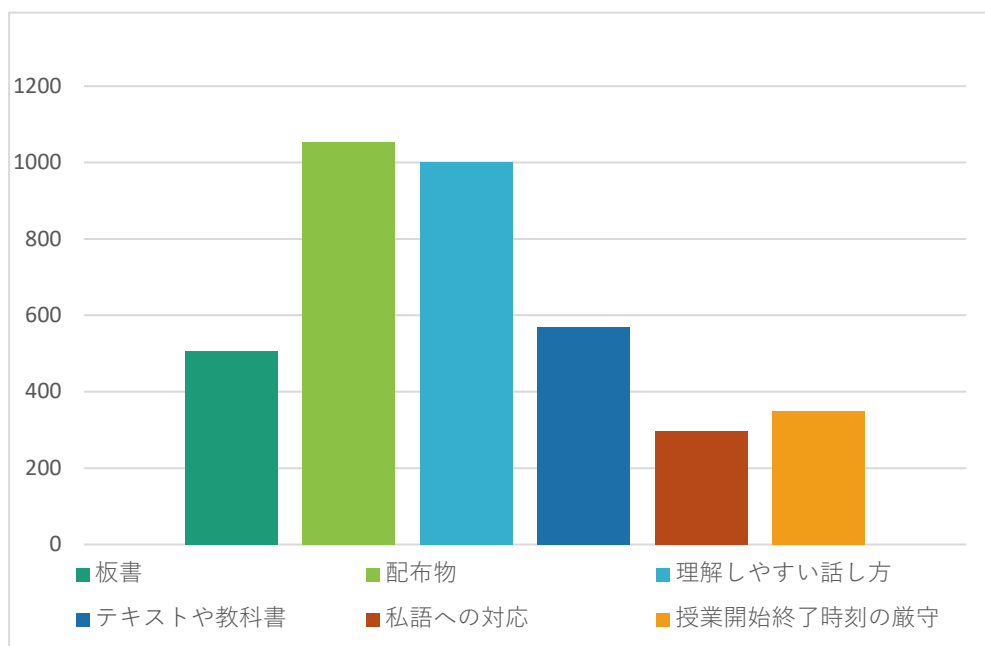


### 【後期】

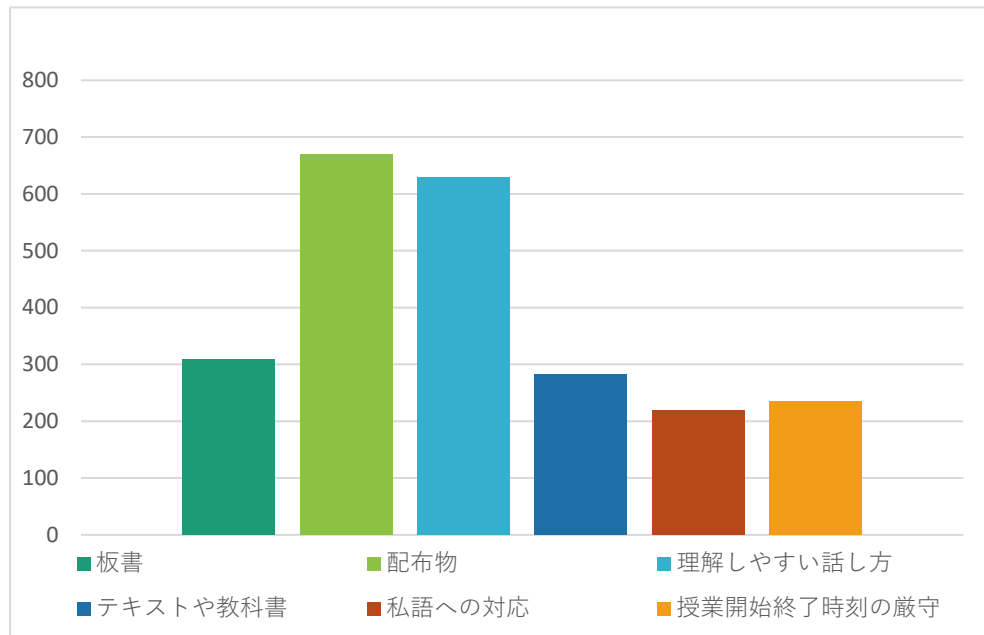


2. この授業で良かった点を全て選んでください。

【前期】

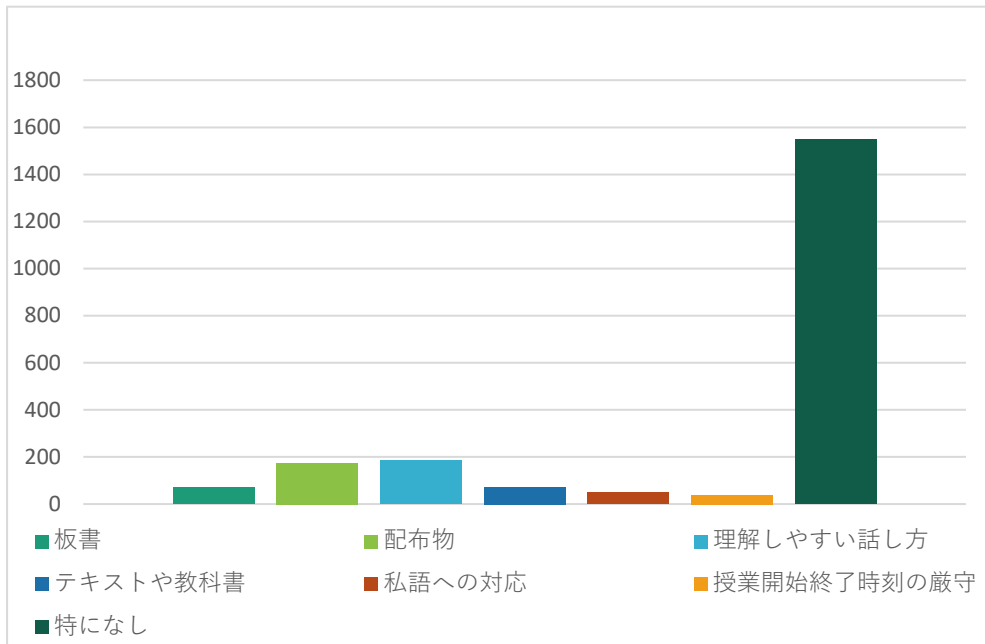


【後期】

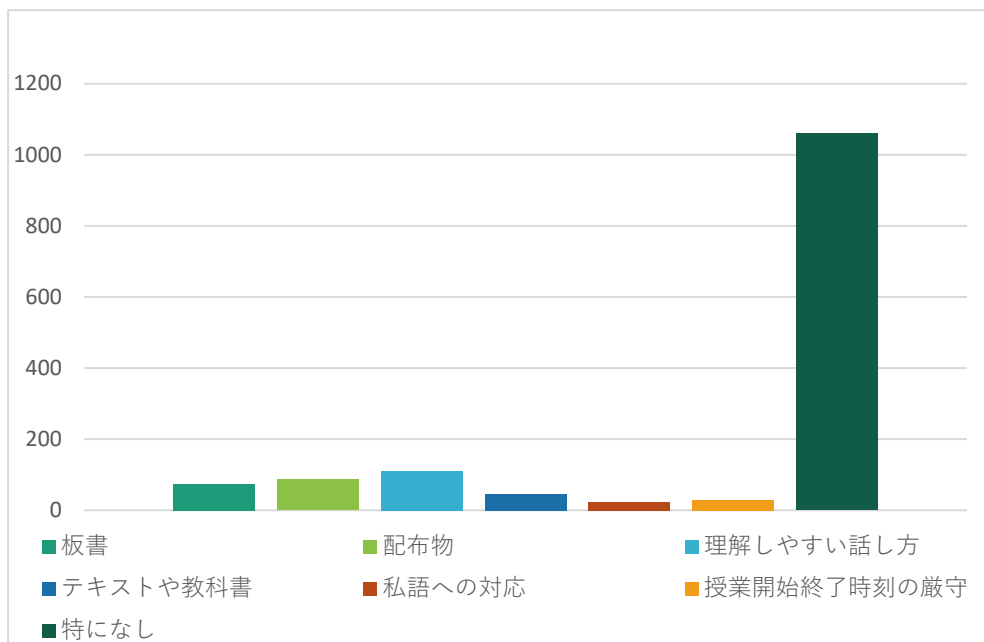


3. この授業で改善してほしい点を全て選んでください。

【前期】

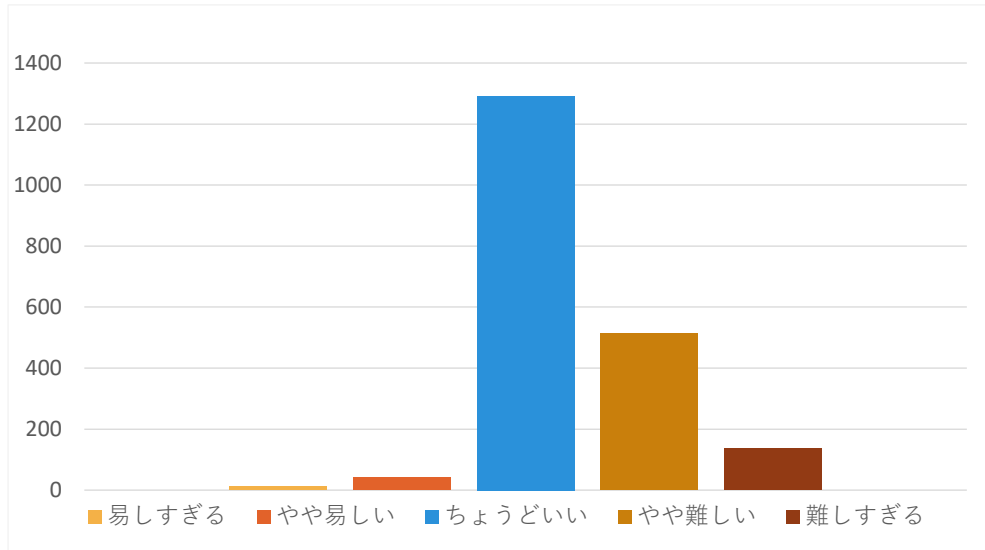


【後期】

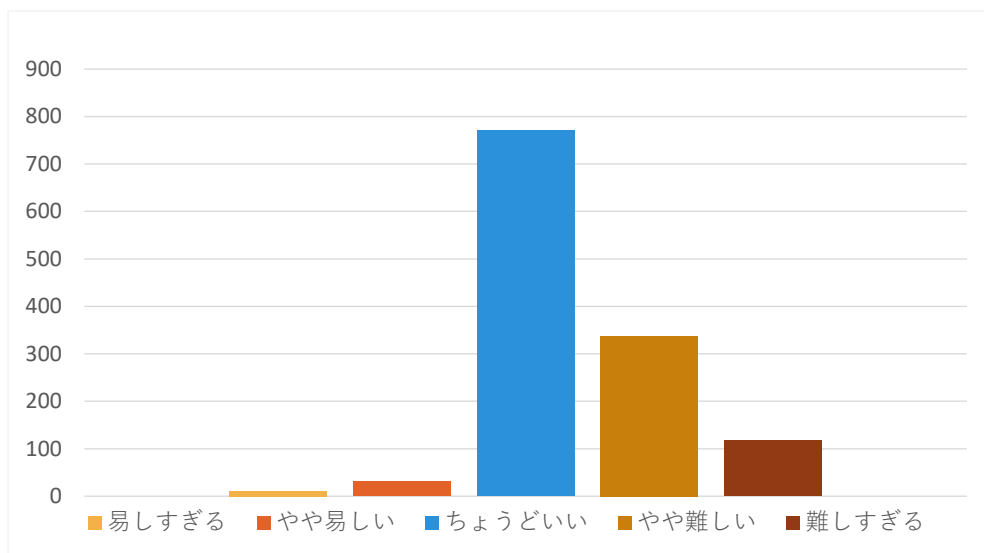


4. 授業の難易度は適切で理解可能な範囲でしたか。

【前期】



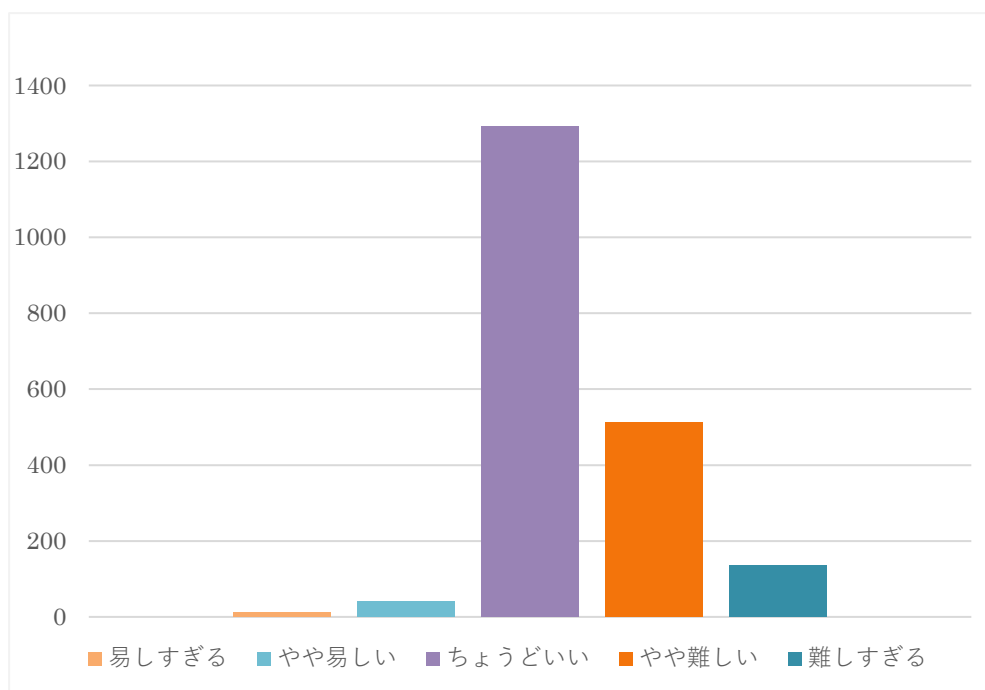
【後期】



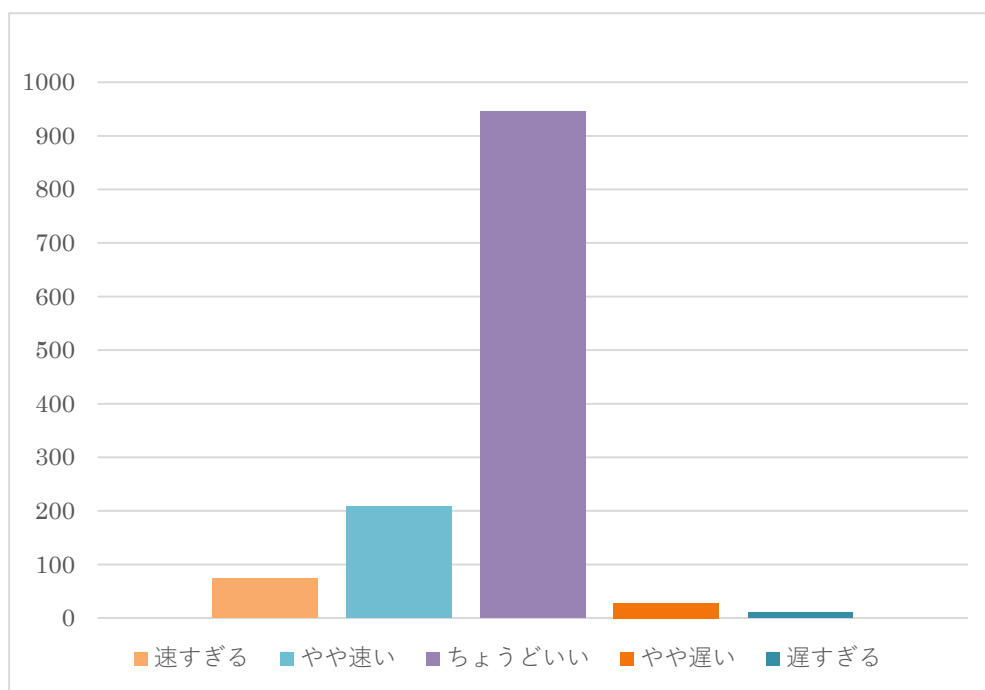


## 5. 授業の進度は適切でしたか

### 【前期】

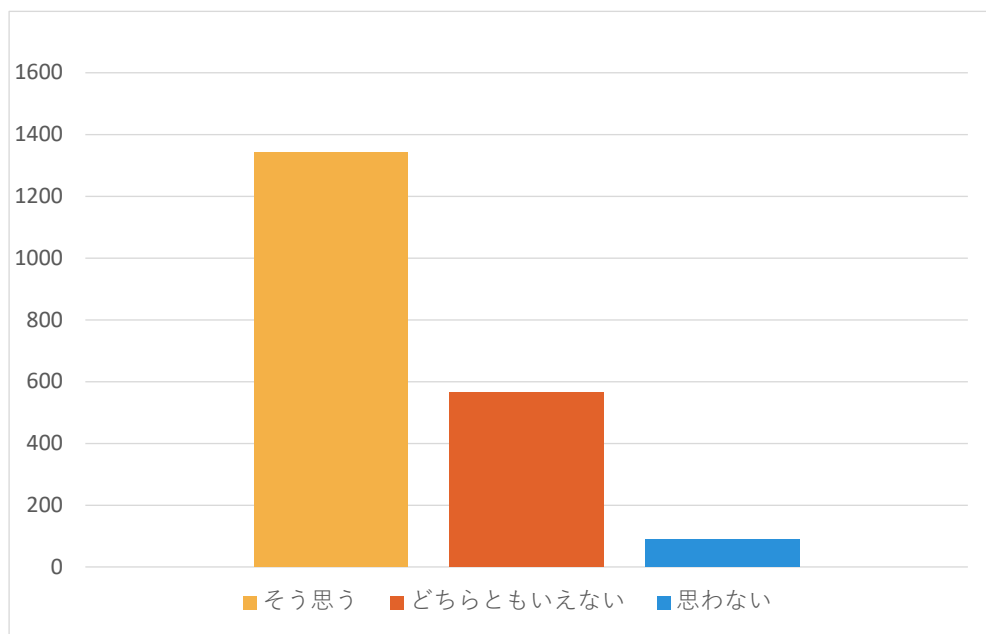


### 【後期】

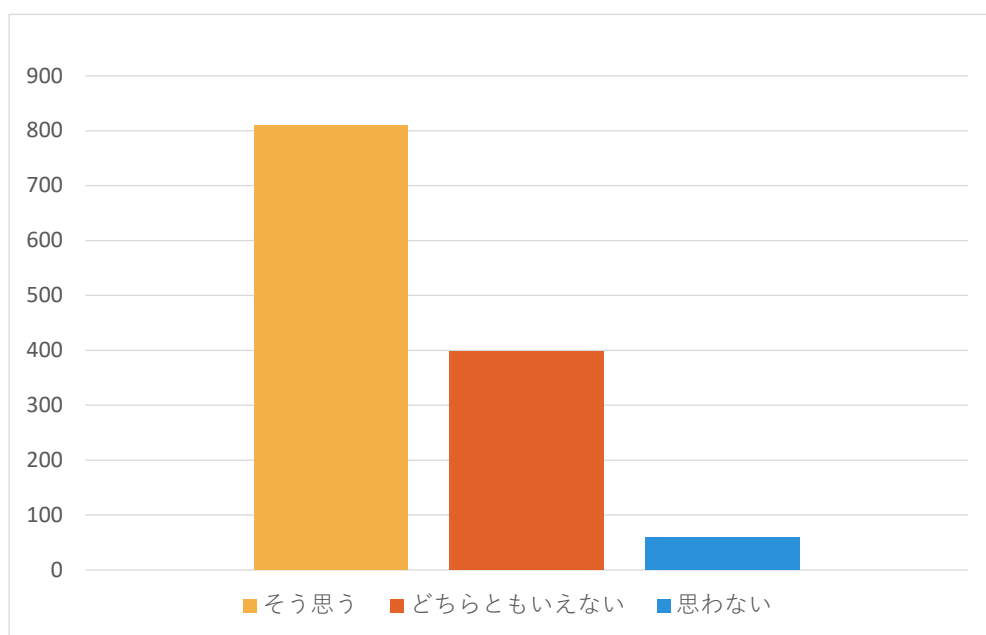


6. 教員は学生に授業への参加（質問・発言・自主的学習）を促し、質問や討論に十分に対応していましたか。

【前期】



【後期】



7. Teamsを使った授業（オンライン授業）について自由に記載してください。

内容	前期	後期
肯定的意見等	147件	27件
改善要望等	91件	7件

8. その他コメントや感想を記入してください。

内容	前期	後期
肯定的意見等	1258件	397件
改善要望等	275件	68件

※大学院授業評価アンケートは別紙参照

平成 29 年 9 月 19 日

大学規程第 5 号

(設置)

第 1 条 大阪河崎リハビリテーション大学（以下「本学」という。）は、本学の建学の精神及び教育理念の実現に向け、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を積極的に推進するために、FD・SD 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学の教育・研究内容及び教育方法の向上及び教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための教職員の能力並びに資質向上のため、全学的な取組みを推進することを目的とする。

(組織)

第 3 条 委員会は次の構成員で組織する。

(1) 学長が任命した者 5 名程度（各専攻の教員 1 名以上を含む）

(2) 事務職員 若干名

2 事務職員は、学長、事務局長の協議に基づき、学長が指名する。

3 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

4 委員に欠員が生じた場合は、これを補充しなければならない。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は委員の中から学長が指名する。

3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長に事故又は支障があるときは、副委員長がその職務を代行する。

5 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。

6 委員長は重要な事項については教授会に提案し、了承を求めなければならない。

第 5 条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) FD・SD 研修の企画・実施
- (2) 学生による授業評価の結果分析及びフィードバックに関すること
- (3) FD・SD 活動に関する情報の収集と提供に関すること
- (4) その他 FD・SD の推進に関すること

2 前号第 1 号に規定する FD・SD 研修の実施に当たり、委員は講師候補者推薦書（様式第 1 号）を委員長に提出することができる。

（会議）

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ会議を開くことができない。

2 議決を要する事項については、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（事務）

第 7 条 委員会の事務は、庶務係が行う。

（改廃）

第 8 条 この規程の改廃は、教授会に諮り、学長が行う。

（補則）

第 9 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成 29 年 10 月 1 日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、平成 17 年 12 月 5 日施行の「大阪河崎リハビリテーション大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」は、廃止する。

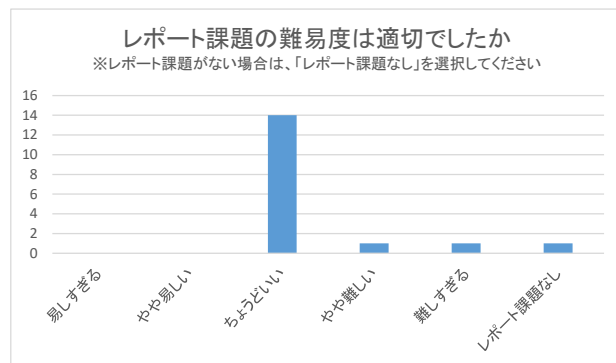
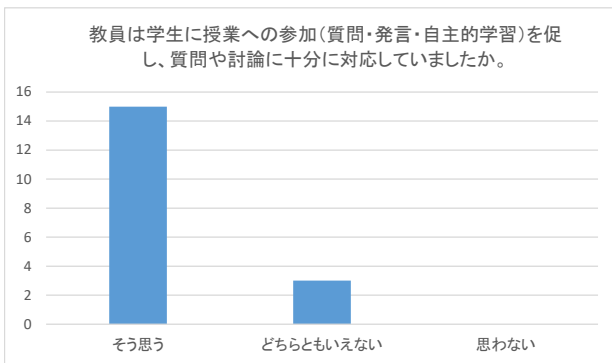
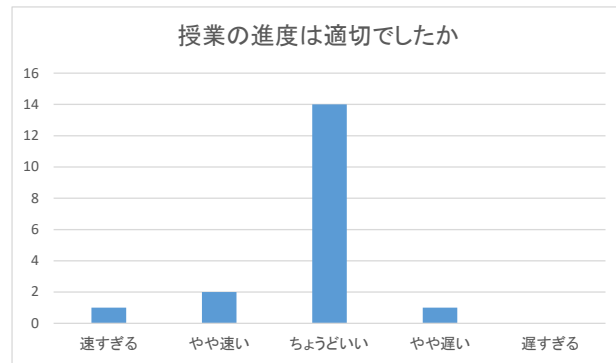
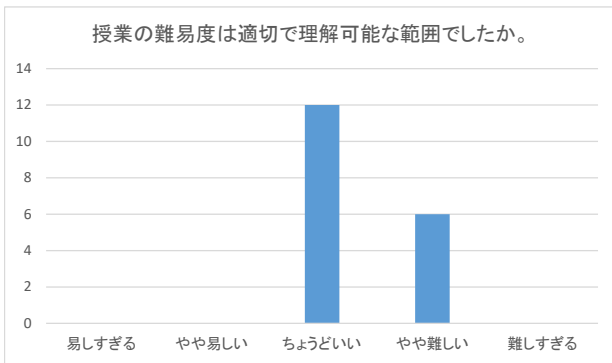
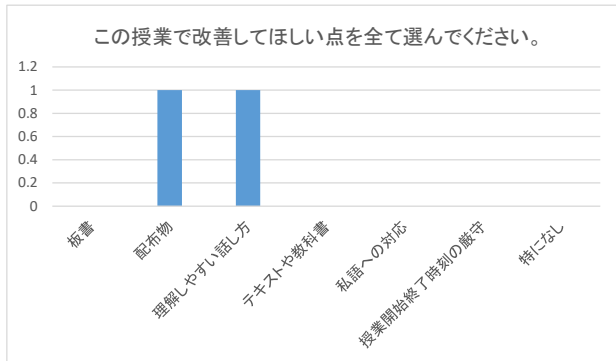
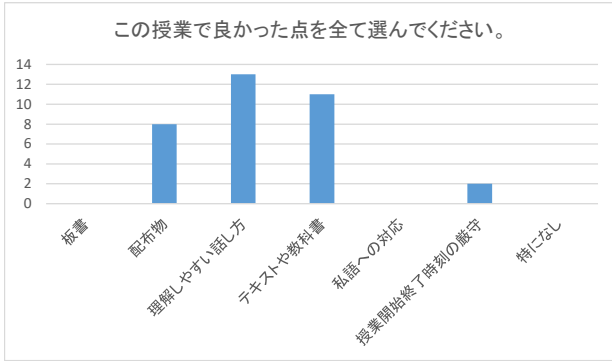
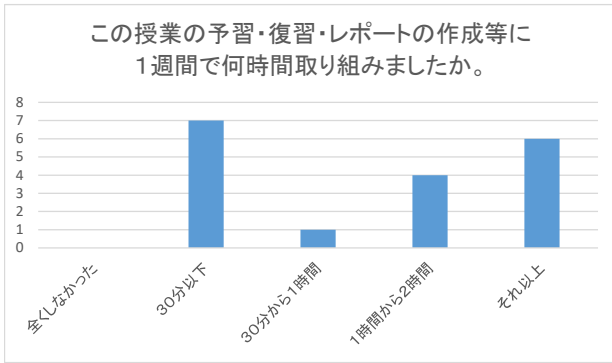
附 則（平成 31 年 3 月 25 日大学規程第 31 号）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 3 年 3 月 16 日大学規程第 15 号）

この規程は、平成 3 年 3 月 16 日から施行する。

## 2022 年度前期 大学院授業評価 記述式一覧



## 2022 年度前期 大学院授業評価 記述式一覧

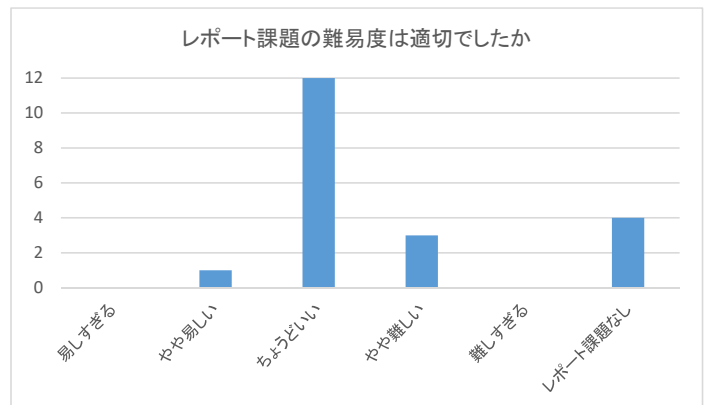
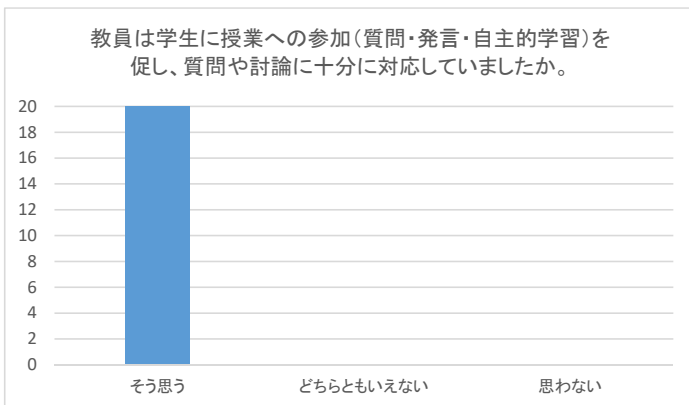
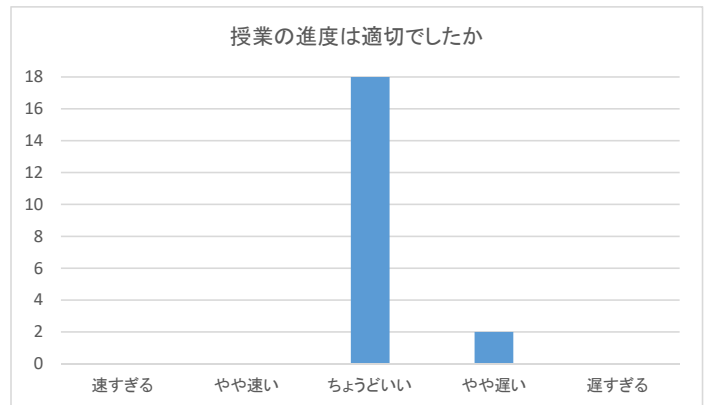
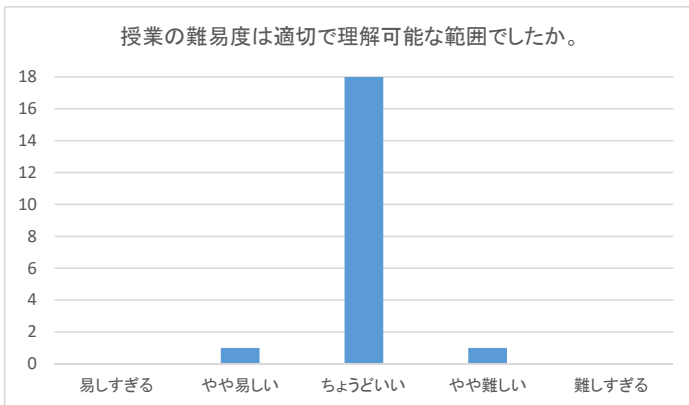
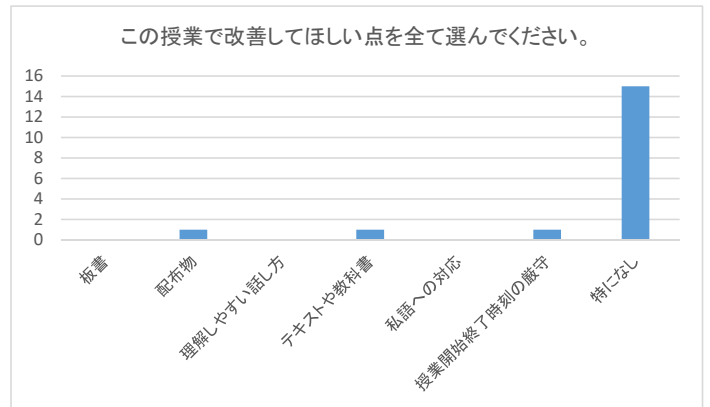
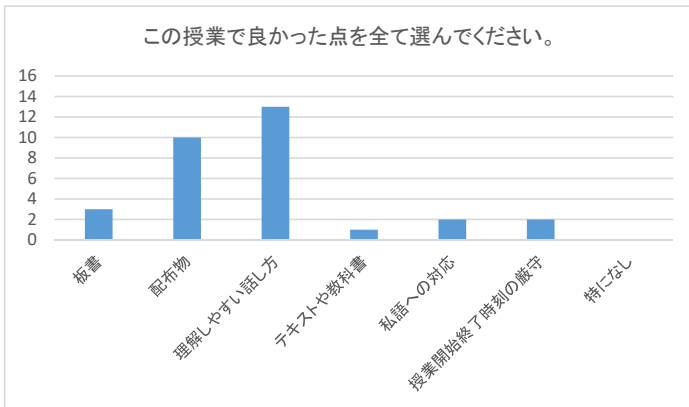
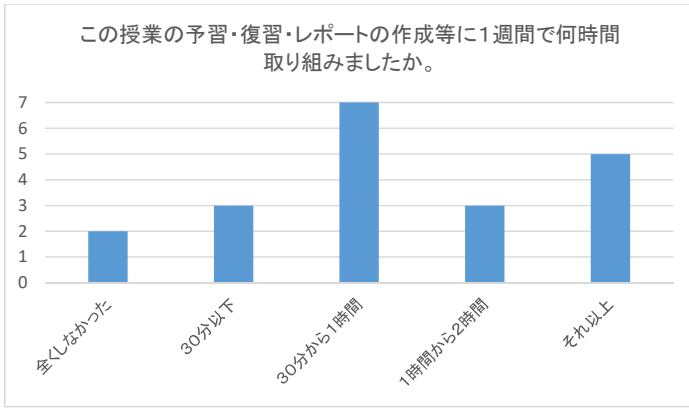
### Teamsを利用した授業(オンライン授業あるいは録画(オンデマンド)授業)について自由に記載してください。

- 録画が行えていない場合があり、オンライン授業の場合、困るかもしれないと思いました。私たちは、ほとんどの講義を対面で行えたため問題なかったが、オンデマンド授業の場合課題提出が必要なので、出席が難しい場合、講義の講義の動画講義の録画、録音がないことはないことは厳しくなるかと思えます。
- ZOOMを利用しての講義でしたが、比較的スムーズに行えたかと思えます。
- 授業はオンラインでしたが、特に問題ありませんでした。
- 1度だけであったが、SPSSを使うという講義内容のため、画面共有により、講義が理解しやすかった。
- スライドがわかりやすかったです。
- 理解しやすかった
- 様々な資料、図、イラストを使用して説明していただいたので、研究の内容が多少難解でも、大筋を掴むことができたと思う。
- オンデマンドでしたが、特に問題ありませんでした。

### 「〇〇科目(各授業名)」に関する、その他コメントや感想を記入してください。

- これまでは、自分の認知症に関する理解は、代表的な認知症(アルツハイマー型認知病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症)は、疾患名とその特徴的な症状をおおまかに知っている程度であったと思います。講義では、これまでの理解よりも更に深い部分、それぞれの認知症の病態、予後、鑑別すべき他の疾患、認知機能についてなどを学ぶことができました。使用したテキストの内容としては医師向けの内容かと思いましたが、武田学長の説明のおかげで、リハビリテーションの視点から学ぶことができました。今後、臨床研究で認知機能について研究していく際にも、病院で認知機能が低下している、あるいは今後低下する可能性がある対象者に対して理学療法を行う際に役立てていきたいと思えます。
- 認知症の基礎的な話から、臨床のことまで細かく聞くことができ、大変勉強になりました。
- 1限と同じように認知症の病態について更に詳しく学ぶことができ、加えて認知予備力についても学ぶことができた。認知予備力を学ぶことで、認知機能に運動が与える影響を研究することの重要性の認識を更に深めることができたように思う。
- CRRCセミナーでは、先生方の研究を聞くことができ、大変勉強になりました。
- 英語に対する苦手意識は少し減ってきたように思います。それも、序盤でESP (English for Specific Purposes)について教えていただき、完璧な英語を話す必要はないことがわかりました。そして、発表を終えてみると、「スライドの作成、スクリプトの作成方法を教えていただき、発表もやってみると、出来ないことはないのかもしれない」と思えるようになりました。英語発表の場合だけでなく、日本語で発表など行う際にも役立つようなことを学ぶことができました。忙しかったですが、本当に有意義な講義であったと考えます。
- 3人の先生方が、自分たちの英語力にあわせて、わかりやすく授業を進めてくださいました。英語のプレゼンの発表を行わせていただき、すこしですが自信もついて、いずれ国際学会での発表も行っていこうと思うことができました。授業スピードに関して、半期ではなく1年を通して学びたいと思いました。
- それぞれの先生の専門の領域について、一部であると思いますが、教えていただくことができました。それぞれの領域について学習する中で、自分が行いたい研究の背景を固めることに繋がったと思います。
- 自分達が研究計画をたて、データを収集し、何かを主張したい場合には、必ず統計学的検定が必要になることは知っていたので、そのための統計ソフトの使用方を教えていただいたのは非常に助かりました。自分達が研究を行う際に利用するだけでなく、論文を読み解く際にも役立てることができる知識を得ることができました。
- 統計の基礎の部分の学び、大変勉強になりました。また、自分の研究についてのアドバイスもいただくことができ、大変ためになりました。
- 障害の有無によって差別を受けないような法整備、その法が制定された背景について、学ぶことができた。しかし、現在の自分の身の回りでも、振り返ってみると差別かもしれないと思ったり、合理的配慮を欠いている場面は思い浮かぶことから、日々の臨床でも、障がい者との関わり方にもっと注意を払いたいと思う。
- 全体通して、非常にわかりやすい講義でした。教科書の内容をベースにそれぞれの分野の最新の知見を紹介して頂き、その内容についての感想、自分なりの今後の研究の課題を書くというプロセスにより、どこまでがわかっているか、どこからがわからないのかを考えるという、研究者としての視点が養えたと思えます。
- 難しい内容もありましたが、教科書的な説明から最新の研究まで、学ぶことができ、大変勉強になりました。また、課題に対しては細かくフィードバックをいただき、大変ためになりました。

## 2022年度後期 大学院授業評価





## 2022 年度後期 大学院授業評価 記述式一覧

2023/5/10

Teams を利用した授業（オンライン授業あるいは録画（オンデマンド）授業）について自由に記載してください。

- 音声小さいときがある
- 何度か利用した
- 見返すことが何度かあった
- 授業時の声が小さく聞こえないときがあった

「〇〇科目（各授業名）」に関する、その他コメントや感想を記入してください。

- 3 コマずつ先生が入れ替わったことから、各先生方の研究について学べたことが良かったです。
- ディスカッションできる場面をたくさんいただき、大変充実した授業でした。また、職場の現在の悩み事を解決させてもらえる授業で、来年度の職場で活かしていける内容でした。
- 各職場の教育体制の問題点とその改善策について考えることで、卒後教育のあるべき姿が見えたように思えました。
- 教育について議論できて面白かった
- 教育について非常に興味深い内容であった
- 今回の授業を通して、教育という分野についてより興味を持つことができました。授業の中でスライドが見にくいと感じたことが何度がありました。
- 先生方が入れ替わりであったことから、それぞれの先生方の研究や地域リハについて学ぶことができ大変満足しています。
- 他職場の教育の現状を聞くことができました。大学の卒前教育、新人教育や、その後の教育体制
- 地域で活躍されている方の講義は非常に参考になりました。
- 地域のリーダーとして活躍されている先生方から、地域リハビリテーションについて学ぶことができ、自分の知らなかったことをたくさん吸収することができ、大変勉強になりました。将来自分も先生方のような活動がしたいと思い、モチベーションが上がりました。
- 地域リハビリテーションが自分の想像していたよりも広い概念であり、新たな視座を得ることができたと考えています。
- 病院でない場、地域における資源とその活用の仕方について学びました。スライドは 1 スライドあたりの情報量が多く、少し理解しづかったことがありました。
- 面白い授業だった
- 臨床に繋がる授業であった
- 論文の批判的吟味とそのまとめを他の院生に見て、質問を頂く中で、自分が足りなかった視点を学ぶことができました。